

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム山王 こもれびの家
(ユニット名)	たんぼぼ棟
所在地 (県・市町村名)	宮城県栗原市
記入者名 (管理者)	遠藤真澄(介護支援専門員兼生活相談員)・阿部志保(ユニットリーダー)
記入日	平成 20年 11月 6日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・山王こもれびの家の理念と、各棟で構築した理念があり、見えやすい場所に掲示している。年度末にはその理念に基づいて振り返りを行っている。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・日誌の中に明記し常に職員の目に入るようにしている。また、日々の業務やカンファレンスの中で、理念に基づいた実践ができるよう話す機会を作っている。	<input type="checkbox"/> ・全職員が常に理念の重要性を認識し、同じ方向性を持って入居者主体のケアにあたるようにしたい。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	・地域の方には、運営推進会議の中で、家族には、2カ月に1度発行している広報紙や、毎月送付している家族への手紙の中で、理念について話す機会を作っている。	<input type="checkbox"/> ・開設前に地域住民を対象に内覧会を実施し、事業所の理念や役割などを伝えている。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	・挨拶は自分たちから行っている。・学生のボランティアや学校の授業などの受け入れをしている。・学校や地域の行事に積極的に参加をし、関わりをもっている。・ケアハウスや特養など、施設間での交流も大切にし、行き来するようにしている。	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・保育所、幼稚園、学校、地域の催しものなどの行事には積極的に参加している。	<input type="checkbox"/> 運営推進会議を通して、より地域の方が身近に感じられるようになった。地域の行事や催し物に参加することにより、地域の方からも声をかけて頂き、交流が出来るようになってきた。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	・運営推進会議の中で、地域の方や家族と話し合いの場をもうけている。 ・人材育成の貢献として実習生の受け入れを積極的に行っている。	○	・認知症になっても、地域の中で安心した暮らしが継続できるように、認知症について悩みがある時は、気軽に足を運んで頂けるよう働きかけていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・外部評価の意義について、また、ケアの振り返りとして自己評価を有効活用できるように勉強会を実施した。それぞれの振り返りがケアに反映されるよう、銘々に記述してもらった。	○	・自分たちが努力している点は評価し、普段の業務の中で見落とされている箇所については具体的な課題を見つけ、より良い方法について、職員それぞれが考え、その意見を吸い上げる機会を作っていきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・2か月に一回、運営推進会議を開催し、利用者やサービスの取り組み等、意見をいただいている。	○	・意見をいただくばかりではなく、サービス向上につながるように、実践していきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	・運営推進会議にて交流している。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	・県主催の権利擁護に関する研修会に管理者が参加している。	○	制度に対する認識が、まだ不十分なため今後も勉強していきたい。また、地域包括支援センターが近くにあるため、相談し協力を仰ぎたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・研修会に参加し、虐待防止について職員に報告している。	○	虐待防止について職員間で意識を統一していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約に関しては、理解しやすい言葉で説明をするように努めている。ご家族の不安な気持ちを受け止め、こちらからの一方的な話しにならないよう注意している。また、不安な点は納得いくまで対応するように努めている。		・家族の思いを受け入れるとともに、現在の施設の状況を説明し3ユニットの中で、新規入居者も、既に入居中の方にも安心して安全な暮らしが出来るように説明をし理解をしていただけるよう努めている。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・利用者の意見は職員が普段から聞く姿勢を持つようにしている。各棟のリーダーが職員から意見を吸い上げ、場合によっては、管理者が時間をかけて話しをする機会を設けている。	○	・職員の動きの中で、利用者から忙しいと感じられるような場面が見受けられるため、利用者がいつでも安心して話しが出来るように気を配っていききたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	・面会時には、普段の様子を話している。健康状態に変化が見られた際や、外来受診後は電話で報告をしている。・毎月、生活の様子や、健康状態、家族へのお願い事などを記載し郵送している。また、返信封筒を用意し家族からのご意見をいただいている。	○	・遠距離の為面会に来られず、こちらから一方的な報告になりがちな家族もいる。根気強く声をかけ、家族の方から足を運んで頂けるホームにしたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・家族の面会時には、挨拶に行くなど、話す機会を設けるよう努めている。また、月一回、家族への手紙を送付し、意見を聞く欄を設けている。・運営推進会議など、家族の意見をいただくようにしている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・勉強会や職員会議、カンファレンス、申し送り等で意見を出す機会を作り運営に反映させている。・常日頃から、職員が意見を出しやすい雰囲気作りを心がけ、管理者の方から、意識的に話す機会を設けている。		・リーダー会議や各委員会を設置し、職員の意見をできるだけ反映できるよう努めている。(ケアや物品の購入など)
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	・その日の利用者の状態に応じて、また、行事など必要時には職員を加配するなど調整している。		・管理者は、利用者の状態の変化に応じた柔軟な体制がとれるようにしている。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	・極力移動や離職によるダメージがないように配慮している。新しい職員に代わる際には、極力引き継ぎの時間を多く持つよう働きかけている。		・新しい職員が入った場合には、利用者、家族に、きちんと紹介をしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・2ヵ月に一度、全体での勉強会(会議)を実施している。また、外部の研修には積極的に参加をするようにしている。GH協会の交流研修や交換研修、相互評価事業研修、宮城県認知症実践者研修など、段階に応じて研修に参加している。研修会に参加した職員から報告をする機会を設け全職員で共有するようにしている。	○ 今後も、勉強会や外部への研修を積極的に行い勉強する場を設けていきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・GH協会主催の交流研修会、交換研修、相互評価事業研修等に参加し、他の施設と交流をもつ機会を設けている。同業者と意見交換をする事により、自らのケアを振り返り、施設全体のケアの質の向上を図っている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	・他の部署と合同で研修旅行を実施したり、年4回の親睦会を開催し、ストレス解消に努めている。・ 昼食後の落ち着いた時間帯に職員同士が話をする時間を設けている。・研修や交流会に参加し、気分転換を図る機会になるよう努めている。	○ 職員一人一人と、じっくり話をする機会を設けていきたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	人事考課や資格取得後には、賃金が上乘せ(臨時介護員は)されるよう配慮している。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	・本人が混乱しないような対応を心掛けている。まずは、本人の気持ちが落ち着いている時間帯に、管理者・リーダーが実態調査を行い、一方的な聞き取りをするのではなく、本人が話やすい雰囲気を作り、分かりやすい言葉で話しかけている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	・本人はもちろんのこと、家族が不安に思うこと、要望などを時間を掛け丁寧に聞き、受け止めることにより、信頼構築を図っている。	○ ・家族が抱えている不安を受け止め、入所後は本人、家族共に安心できる暮らしと、状態改善を念頭に信頼関係を築いていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・早急な対応が必要な相談者には、地域包括支援センターや他の事業所のサービスにつなげるようにしている。		・同法人のグループホームやケアハウスの空室状況について、情報を入れ紹介をしている。また、質問があれば他の介護施設についての説明をしている。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・可能な場合には、ご本人やご家族に事前に事業所の見学を勧めている。また、ケアマネージャー等の関係者にも気軽に見学していただき安心感をもって入居していただけるよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・いつも利用者から教えていただく場面を多く持つようにし、家族のような関係を築けるようにしている。普段の生活では、畑仕事や家事、昔の遊びを教えて頂く他に、各イベントと一緒に参加する等し、喜怒哀楽を共にしている。	○	・利用者と一緒に語り合う時間を作り、人生の先輩として、生活の知恵や慣わし等を教えていただきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	・毎月1回、利用者の日頃の様子や身体状態などを手紙で伝えてたり、電話をかけた時や面会に来た際に日々の暮らしの出来事や気づいたことを伝え、一緒に支えるための協力関係を気づいている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	・本人と家族の関係を考慮しつつ、各イベントに家族をお誘いしたり、外出や外泊で家族と一緒に過ごす事を勧めし、より良い関係が築けるように努めている。また、遠方に家族には居室で一緒に宿泊していただけるよう働きかけている。	○	家族の面会時には、一緒に食事をとっていただき、ゆっくり会話を楽しんでいただけるよう働きかけていきたい。また、疎遠がちな家族との関係作りにも取り組んでいきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・自宅や親戚の家へお連れしたり、事業所内に知人や友人がいれば交流を図る機会を作っている。また、自宅へお連れした際には、掃除や草取りをしていただいている。	○	・今まで以上に、各利用者のバックグラウンドを明確にし馴染みの人や場所との関係を把握していきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	・各利用者の個性を把握し、利用者同士がより良い関係を築けるよう、お茶のみの場を設けたり、必要な時は職員が間に入り、バランスを保ち関わりあえるようにしている。また、世話役の方にうまく力を発揮してもらい、他の方の気持ちを引き上げていただける場面を作っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	・利用者と、他の事業所に移られた方と一緒に遊びに行き、利用者同士の関係も断ち切らないように努めている。また、家族の意向で医療機関に移られた利用者にも、今までの関係を大切に職員が見舞いに行ったり、利用者と一緒に見舞いに行っている。		・サービス利用が終了しても、家族など周囲の協力が得られる場合は、馴染みの人として顔を見にお連れするなど、可能な限り関係を継続している。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・センター方式を活用し、日々の関わりの中で話や表情から一人一人の思いや意向を把握し、その方に合った最良の方法を検討している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・入居時に家族や関係者などから、できるだけ詳しくバックグラウンドを教えていただき、これまでの暮らしが継続できるようにしている。又、入居後も本人、家族や友人にも、どんな生活をしてきたのかを聴くように努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	・必要に応じたセンター方式を活用し、一人ひとりの生活の全体のリズムを把握したり、日々の生活の些細なことでもくみ取り、暮らしの状況を把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	・月に一回スタッフ全員でカンファレンスを行い、家族の意向と本人の思いや要望を反映して、より良く暮らせるプランを作成するようにしている。また、ケアプランにはニーズを本人のありのままの言葉で記載し、それぞれの意見や課題を反映したケアプランを作成している。		・カンファレンスでは、課題検討やケアの方向性について意見を出し合いより良い生活を送るためのケアプラン作成を行っている。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	・月に一回のカンファレンスの際に、スタッフ全員で意見を話し合い、見直しを行っている。また、ケアプランの遂行状態に支障が生じた際や、心身状態の変化や入院などで状態が変化した際は、その都度見直しを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・個別の日誌以外に気づきノートを用意し、業務上の重要事項の記載や日々のケアの中で気づいたことを記録している。そのノートは、必ず出勤時に確認をしてスタッフ間の情報共有をおこなっている。また、看護師との情報交換ノートを用意し、医療面での情報共有も密に行い、医療連携を図っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・本人、家族の状況に応じて、買い物や通院の支援を行っている。また、入院した際の早期退院の支援、医療処置を受けながらの生活の継続の支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	2ヶ月に1度運営推進会議を行うよう努め地域の方々との意見交換を行う機会を設けたり、学校からの訪問や民生委員の方が訪ねて来てくれ、近隣の学校行事へも参加できている。又年に2回消防避難訓練の指導をいただいている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者の状況に応じて、訪問理容サービスを利用したり、歩くことのできる利用者はこちらから店舗の方へ散髪をしに出掛ける事ができている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に包括支援センターの職員に参加していただき情報交換や協力をいただいている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医、利用者や家族が希望するかかりつけ医に受診したり、その方の状況に応じ協力医に往診していただいている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	・認知症専門医から必要に応じて診断情報や治療方針、指示や助言をいただいている。また、協力医療機関にも指示や助言をいただいている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	同事業所内の訪問看護ステーションと連携しており日中・夜間問わずいつでも連絡が取れるようになっており、定期的に来苑していただいたり、連絡ノートを活用し情報を共有しており確実な連携を図っている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時は利用者の情報を医療機関に提供し、こまめに職員がお見舞いに行きその際に回復状況などを確認し、情報を交換しながら現場で受け入れ態勢を整え早期退院ができるように支援している。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期に関わる意思確認書を作成し終末期ケアの説明を行い家族の意向を聞いている。又、その時に応じ主治医、家族を交え話し合いを何度も重ねている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	・家族の意向を踏まえた上で、医師と職員が連携をとり、利用者が安心して終末期を過ごしていただけるよう取り組んでいる。また、急変した場合は、協力医にすぐに対応して頂けるように、密に状態報告をおこない連携を図り対応している。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	・話し合いをしっかりと行い、次の受け入れ先は、現在の生活とどのような所が違うのか等、伝えたうえでお互いに納得し移動するようにしている。これまでの支援の内容や注意が必要な事に関して、詳しく記載した書類を提供している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	・個人情報保護の観点から、日誌などの記録物には、実名を公表せずイニシャルで名前を記入している。また、職員会議やカンファレンスの際に、個人情報保護について説明し、職員の意識を統一している。	○ ・利用者のプライバシーを損ねる言葉掛けやケアをしていないか、日常的に確認を行っていききたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	・日常生活の中で、自然に出てくる希望などではできる限り取り入れ、自己決定への支援へと繋げている。また、スタッフ側の都合で押し付けるような声掛けはせず、利用者が自己決定できるように働きかけている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・基本的な1日の流れは持っているが、その日、その時のやりたいことなど、本人の思いや気持ちを尊重して、できるだけその人らしい生活を送れるよう支援している。必要に応じては業務内容を見直し、一人ひとりのペースに添えるようにしている。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	・個々の生活習慣に合わせて支援し、好みの化粧品を使っていたり、本人の馴染みの美容室で希望にあわせたカットやパーマをしていただいている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	・棟で献立を作成する際は、利用者に食べたい物を聞き、リクエストメニューを取り入れている。調理、盛り付け、食事、片付けは一緒に行い、会話も交えながら楽しく食事できるようにしている。また、静かな空間で穏やかに食事を摂っていただくために、食事中はテレビを消している。	・時には出前をとり、メニュー表の中から好きな物を選んでいただきラーメンや寿司を食べている。又、外食へも出かけ気分転換を図りながら楽しんでいただけるよう支援している。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	・おやつ時には、一人ひとりの咀嚼力に応じた物を提供している。又、好みの物を選んでいただいている。飲み物も、それぞれの嗜好を把握し提供している。	・買い物に行った際には、おやつなど利用者の好みの物を選んでいただき、楽しみができるよう支援している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	・排泄パターンや方法を把握して、自立度を活かした排泄介助、自尊心を傷つけないトイレ誘導をおこなうようにしている。また、安易にオムツに頼らずにその方に合った最良の方法を、スタッフと本人または家族と検討するようにしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・職員が一方的に決めず、入浴したい日に入浴していただいている。また、利用者のニーズに合わせて、夜間入浴を実施している。その他、入浴剤を入れて香りを楽しんで頂いたり、ゆず湯など季節を感じる事も大切にしている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	・日中になるべく活動を働きかけ、生活のリズムを整え安眠できるようにしている。また、夕方から就床時には夜であることが自然と理解できるよう、カーテンを閉め照明を少なくし、静かな環境を作るようにしている。その他、寝付けない方には温かい飲み物を飲んでいただいたり、スタッフとゆっくり話などをして安心できるように心がけている。		・お昼寝の際には、居室のほか和室やリビングなど、好きなところで休んでいただいている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・食事作りや洗濯、掃除、散歩、食材の買出し、畑や花壇作り、収穫等一人ひとりに合わせた楽しみ事や役割への参加を支援している。また、梅干しや干し柿作り、山菜の下ごしらえ等、利用者の経験や知恵を発揮できる場面を多く作っている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・利用者の金銭管理能力や希望に応じて、小額を所持していただき現金所持の安心感や満足感に配慮している。買い物の際は出来る限り自分で支払えるよう支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・外出は気分転換やストレスの発散、五感刺激の機会として大切にしている。天候やその日の気分や希望に応じて外出をし、季節を肌で感じていただけるようにしている。また、歩行困難な方は車椅子を利用し戸外に出ることを積極的に行っている。		・事業所の周辺には、保育所や小学校が隣接しているため、そこまで散歩し、子供達との触れ合いを楽しみにしている利用者が多い。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	・遠方や観光地などの外出は、利用者の希望や職員の起案により、予め計画を立て、職員の勤務を調整するなどして支援している。	○	・遠方に外出する際は、ご家族にも声を掛け、一緒に外出し楽しい時間をすごしていただけるよう、支援していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・本人の能力やニーズ、家族の希望に応じて定期的に電話をいただいたり、希望があれば職員から家族への電話もできるような支援している。又、電話で話す際には他の方に聞こえないよう場所に配慮している。家族、友人、知人からの手紙や電話は歓迎している。	○	・家族へは、職員から毎月近況報告の手紙を送っているが、今後は利用者にも手紙やはがきを書いていただきたいと考えている。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	・特に訪問時間は決めておらず、いつでも訪ねて来ていただけるようにしている。また、本人と家族でゆっくり過ごしていただけるよう、居室で一緒に過ごしていただき、安心感や楽しみへと繋がるようにしている。また、希望があれば宿泊もしていただいている。	○	・家族以外に、知人や友人が今以上に来ていただけるよう、働きかけを行っていきたい。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・気づかないうちに身体拘束をしていないか見直しを行うようにしている。ベッドからの転落の恐れがある方などは、ベッド柵を使用することをご本人とご家族の同意を得ている。しかし、出来るかぎりベッド柵など使用しないよう状態の安定や安全を考えてケアをおこなっている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・利用者が外出したいと訴えたり、そのような行動を察知した際には、一緒に散歩したり、さりげなく声がけをしている。また、出て行く気配を見落とさないよう、職員同士声がけを行い居場所の把握に努めている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	・日中は、スタッフ3名で状況の把握、見守りを行っている。利用者の居室への過剰な入室はしないようにしながら、見守りを行っている。夜間は、利用者が起きた時にすぐに対応できるよう、リビングで待機している。また、2～3時間ごとに巡回をおこない様子を確認している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	・注意が必要な物品については、マニュアルがある。特に注意が必要な洗剤、薬品などは利用者の手の届かない所や鍵をかけて保管している。包丁や食器用洗剤、洗濯用洗剤等は、注意は必要であっても、使うことができなくならぬようにしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	・定期的に、利用者も一緒に避難訓練をおこない避難の方法を確認している。又、毎回ではないが消防署とも一緒に訓練を行っている。事故があった際には、事故報告書を提出しその後、事故防止に向けての検討会をおこなっている。		・火災の避難訓練については、夜間想定訓練もおこなっている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時の対応について、マニュアルを作成し周知している	○	以前消防署にて、救急手当・蘇生術の研修を受けている。しかし、その後働き始めた職員は受けていない。今後、また研修を実施したい
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・災害発生時の対応マニュアルを作成し、避難訓練を行い、非難経路、避難場所の確認、通報の方法などシミュレーションを行い訓練をしている。地域の協力体制については、運営推進会議の際に協力を呼びかけている。	○	・岩手・宮城内陸地震を教訓に、非常食や飲用水の備蓄、非常持ち出し袋の準備を行っていききたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	・自由な暮らしを支援するために、利用者一人ひとりに起こり得るリスクを把握しており定期的に見直しを行っている。また、家族に対して対応策やリスクを具体的に説明し、理解を得られるようにしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	・毎日バイタルチェックを行い、体調変化の早期発見に努めている。また、変化が見られた際は、すぐに看護師に報告し指示を仰ぐとともに、細かい記録を行い職員間での情報共有を対応にあたっている。その後の、指示によっては医療機関への報告、受診にもつなげている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・薬の説明書を個人毎ファイルにはさみ、職員が内容を確認できるようにしている。又、薬の処方や用量が変更になった際は、全職員で情報を共有し、引継ぎの徹底と確実な服用を行っている。看護師への報告は口頭と記録で確実な情報共有を行っている。服薬時は、その都度職員で確認を行い確実に服薬できるように努めている。	○	・利用者の体調管理のうち服薬支援は最も重要なもののひとつに入るため、追加処方の際は引き継ぎの徹底と常時薬の熟知を職員全員が目指す必要がある。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	・食事や飲み物の工夫をし、排便リズムを把握した上での便意の察知、トイレ誘導をしている。また、散歩や活動を働きかけ体を動かす機会をとっている。どうしても便秘が改善されない場合は、看護師や協力医の指示の下、薬剤調整による排便コントロールを実施し、便秘予防に取り組んでいる。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	・一人ひとりの状態を把握し、一人ひとりに合った方法で歯磨きの手伝いや、義歯の洗浄をおこなっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・食事摂取量を毎日チェックし、職員が情報を共有できるようにしている。又、体調不良などにより摂取量が少ない方には、グラム計測をし、管理栄養士にカロリー計算をしてもらい、看護師や医師に相談している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防マニュアルを作成しており、それに従っている。インフルエンザの予防接種を毎年行い予防に努めている。又、来苑者にも手の消毒・マスクの着用をお願いしている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	・1週間に1度、食材の点検を行い、冷蔵庫内の掃除をしている。まな板や包丁、ふきんなどその日に使用した調理器具は、毎晩漂白除菌を行い衛生管理チェック表を作り点検をおこなっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	・玄関には、花や植木鉢を置いたり、装飾品を飾り、季節感が味わえるようにしている。また、ベンチや椅子を置きくつろぎのスペースを設けている。その他、庭にはご家族やボランティアの方に植えていただいた花などもあり、和やかな雰囲気作りに努めている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・各箇所に季節感を演出する飾りつけや、思い思いにゆっくりと落ち着いて過ごして頂けるような空間づくりをしている。	○	和室の活用が十分にできていないため、環境を整えてこれまでに以上に活用していきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・各所に、椅子やベンチ、テーブルを配置し一人で過したり、利用者同士で談話やお茶のみなどをして、ゆったりくつろげるスペースを作っている。また、和室ではコタツを利用して横になって昼寝をしていただき、くつろげるスペース作りを大切にしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・使い慣れた家具や日用品、見慣れた装飾品を持ち込んでいただき、安心できる居室空間をつくるようにしている。また、利用者の好みや身体状況に応じてベッドや布団を使用している。		その都度、利用者の状態に応じて、家族と相談し自宅から馴染みの物を持ってきていただいたり、位牌や遺影を持ち込んでいる利用者もいる。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	・居室の臭いが気になる時は、芳香剤の使用と換気を行っている。利用者によっては芳香剤を目につかない場所へおいてる。また、利用者の体調を見ながら、冷暖房の調節や換気での温度調節を行っている。		
□				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・棟内はバリアフリー構造になっており、トイレ、浴室、廊下などには手すりなどを設置し、利用者の安全な移動の手助けをしている。また、利用者の状態の変化に伴って、トイレには、手すりを増設した。その他、シンクや調理台は利用者の使い易い高さになっている。	○	玄関に段差があるため、スロープや手すりの設置を検討している。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	・わかる事、わからない事、できる事、できない事しっかりとを見極め、利用者一人ひとりにとってより良い方法を検討し、支援している。また、些細なことでも汲み取り、出来ることを出来るよう職員同士で話し合い、工夫をして支援をしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	・ホームの周辺は花壇や畑で囲まれており、車椅子の方でも気軽に土に触れられるよう、車椅子の高さに作った畑があり、四季折々の野菜や植物が楽しめるようにしている。	○	・花壇や畑へは、利用者には何を植えたいかなど、季節毎の野菜や植物を聞き、意見を尊重し、育て方の知恵を借りながら一緒に楽しめるよう支援していきたい。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・ご本人から、自宅へ行ってみたいと希望があった際は、ご家族の了解をいただき、スタッフと一緒にお連れしている。
- ・家族の来訪も多く、家族との関わりを大切にしている。

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム山王こもれびの家
(ユニット名)	すずらん棟
所在地 (県・市町村名)	宮城県栗原市
記入者名 (管理者)	遠藤真澄(介護支援専門員兼生活相談員)・白鳥美紀(ユニットリーダー)
記入日	平成 20年 11月 6日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○	・全職員が常に理念の重要性を認識し、同じ方向性を持って入居者主体のケアにあたるようにしたい。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	○	・開設前に地域住民を対象に内覧会を実施し、事業所の理念や役割などを伝えている。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	運営推進会議を通して、より地域の方が身近に感じられるようになった。地域の行事や催し物に参加することにより、地域の方からも声をかけて頂き、交流が出来るようになってきた。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	・運営推進会議の中で、地域の方や家族と話し合いの場をもっている。 ・人材育成の貢献として実習生の受け入れを積極的に行っている。	○	・認知症になっても、地域の中で安心した暮らしが継続できるように、認知症について悩みがある時は、気軽に足を運んで頂けるよう働きかけていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・外部評価の意義について、また、ケアの振り返りとして自己評価を有効活用できるように勉強会を実施した。それぞれの振り返りがケアに反映されるよう、銘々に記述してもらった。	○	・自分たちが努力している点は評価し、普段の業務の中で見落とされている箇所については具体的な課題を見つけ、より良い方法について、職員それぞれが考え、その意見を吸い上げる機会を作っていきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・2ヵ月に一回、運営推進会議を開催し、利用者やサービスの取り組み等、意見をいただいている。	○	・意見をいただくばかりではなく、サービス向上につながるように、実践していきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	・運営推進会議にて交流している。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	・県主催の権利擁護に関する研修会に管理者が参加している。	○	制度に対する認識が、まだ不十分なため今後も勉強していきたい。また、地域包括支援センターが近くにあるため、相談し協力を仰ぎたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・研修会に参加し、虐待防止について職員に報告している。	○	虐待防止について職員間で意識を統一していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>・契約に関しては、理解しやすい言葉で説明をするように努めている。ご家族の不安な気持ちを受け止め、こちらからの一方的な話しにならないよう注意している。また、不安な点は納得いくまで対応するように努めている。</p>	<p>・家族の思いを受け入れるとともに、現在の施設の状況を説明し3ユニットの中で、新規入居者も、既に入居中の方にも安心して安全な暮らしが出来るように説明をし理解をしていただけるよう努めている。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>・利用者の意見は職員が普段から聞く姿勢を持つようになっている。各棟のリーダーが職員から意見を吸い上げ、場合によっては、管理者が時間をかけて話しをする機会を設けている。</p>	<p>○</p> <p>・職員の動きの中で、利用者から忙しいと感ぜられるような場面が見受けられるため、利用者がいつでも安心して話しが出来るように気を配っていききたい。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>・面会時には、普段の様子を話している。健康状態に変化が見られた際や、外来受診後は電話で報告をしている。・毎月、生活の様子や、健康状態、家族へのお願い事などを記載し郵送している。また、返信封筒を用意し家族からのご意見をいただいている。</p>	<p>○</p> <p>・遠距離の為面会に来られず、こちらから一方的な報告になりがちな家族もいる。根気強く声をかけ、家族の方から足を運んで頂けるホームにしたい。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>・家族の面会時には、挨拶に行くなど、話す機会を設けるよう努めている。また、月一回、家族への手紙を送付し、意見を聞く欄を設けている。・運営推進会議など、家族の意見をいただくようにしている。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>・勉強会や職員会議、カンファレンス、申し送り等で意見を出す機会を作り運営に反映させている。・常日頃から、職員が意見を出しやすい雰囲気作りを心がけ、管理者の方から、意識的に話す機会を設けている。</p>	<p>・リーダー会議や各委員会を設置し、職員の意見をできるだけ反映できるよう努めている。(ケアや物品の購入など)</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>・その日の利用者の状態に応じて、また、行事など必要時には職員を加配するなど調整している。</p>	<p>・管理者は、利用者の状態の変化に応じた柔軟な体制がとれるようにしている。</p>
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>・極力移動や離職によるダメージがないように配慮している。新しい職員に代わる際には、極力引き継ぎの時間を多く持つよう働きかけている。</p>	<p>・新しい職員が入った場合には、利用者、家族に、きちんと紹介をしている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・2ヵ月に一度、全体での勉強会(会議)を実施している。また、外部の研修には積極的に参加をするようにしている。GH協会の交流研修や交換研修、相互評価事業研修、宮城県認知症実践者研修など、段階に応じて研修に参加している。研修会に参加した職員から報告をする機会を設け全職員で共有するようになっている。	○ 今後も、勉強会や外部への研修を積極的に行い勉強する場を設けていきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・GH協会主催の交流研修会、交換研修、相互評価事業研修等に参加し、他の施設と交流をもつ機会を設けている。同業者と意見交換をする事により、自らのケアを振り返り、施設全体のケアの質の向上を図っている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	・他の部署と合同で研修旅行を実施したり、年4回の親睦会を開催し、ストレス解消に努めている。・昼食後の落ち着いた時間帯に職員同士が話をする時間を設けている。・研修や交流会に参加し、気分転換を図る機会になるよう努めている。	○ 職員一人一人と、じっくり話をする機会を設けていきたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	人事考課や資格取得後には、賃金が上乘せ(臨時介護員は)されるよう配慮している。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人が緊張せず話しやすい雰囲気作りから始め、混乱しないような対応を心掛け、本人の状況を理解し苦しんでいる事、困っている事を把握するよう努めている。	本人の気持ちが落ち着いている時間帯に実調を行い、こちらからの一方的な聞き取りをするのではなく、本人が話しやすい雰囲気を作り分かりやすい言葉で話し掛けている。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ケアプランを送付の際に家族からの返信がもらえる用紙を送り、ご家族様の意見を聞けるようにしている。又、返信があった際職員全員が見れるようにしている。	家族が抱えている悩み、問題について受け止める姿勢を持ち入居に至った際に、どうしたら安心できる暮らしが可能かを一緒に考えるようにしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	地域包括支援センターやケアマネジャー・本人・家族の実調をしっかりと行い、どの支援を必要としているかを見極め対応に努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前に本人・家族が見学に来たり、日帰り・宿泊体験をして、その方が馴染めるよう努力している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩である利用者と共に過ごしていく上で料理作りや畑仕事等を一緒に行うことで知恵や経験を教えていただき、家族のような関係を築けるようにしている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	毎月1回家族への手紙を通しての情報提供や色々な行事への参加のお誘いをして、来ていただいたご家族様の意見やお思いを理解し一緒に支えていく関係を作っている。	○	家族によっては行事に来れない方もいるが、なるべく家族が行事に参加していただけるような声掛けを行う。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族の関係を考慮し自宅に外出・外泊をしたり、施設行事にご家族様を招き一緒に過ごす時間を作る支援をしている。又ホームへ泊まりたいと言う家族も受け入れ協力関係を築いている。	○	利用者が自宅等に外泊できるよう家族の協力を得たり、疎遠がちな家族との関係作りにも取り組んでいきたいと思う。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方が来苑しやすい雰囲気作りや馴染みの所へ買い物やドライブに出向くようにし関係が途切れないように支援している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	毎日の食事時間やおやつの時間に利用者の中に職員も一緒に混ざりお茶を飲みながら会話をしたり、準備や片付けを一緒に行うことで関わりや役割ができています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院や施設移動をした方達に利用者と一緒に会いに行ったり、退所された家族・利用者が急に来苑された時でも快く受け入れ関係を断ち切らないよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で話や表情から思いや希望をくみとり毎月1度のカンファレンスをもとにその人にあつたよりよい支援を検討している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家族や本人からの聞き取りをし、入居後は今までのような暮らしが継続できるよう本人との関わりを大切にしている。又、面会者や家族にアセスメントをしてより良く把握できるよう努めている。	○	なかなか聞き取りができない方もいるが、利用者本人との会話の中で聴けるように心掛けている。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者様一人ひとりの生活全体のリズムを把握するようにしている。又、行動、表情など変化がある時は日誌や連絡ノートにて引き継ぎ職員間で把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月に1度職員全員でカンファレンスを行い本人の思いや要望・家族の意向を反映しケアの方向性について意見を出し合い、よりよく暮らせるためのケアプランを作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月1度のカンファレンスの際、職員全員で意見を出し合い話し合いを重ね現状把握してからそれに伴いケアプランを作成している。著しく状態変化が見られる際など状況に応じて速やかに話し合いケアプランを作り直している。		利用者の日々の言葉や気持ちをケアに反映させようと努力はしているが、十分ではないと思われる。連絡ノートを活用し、どんなに小さいことでも話し合い今後のケアに役立てたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は日誌に個別に記録し、その時の結果や気づき、工夫などは連絡ノートに書き込み確認をしたらサインをして確実なケアの統一を図り、その結果で見直し新たなケアプラン作成に役立てられている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況に応じ通院の支援を行ったり、重度化した場合など家族の意向を取り入れ同事業所の特別養護老人ホームへ転居するなど柔軟な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	2ヶ月に1度運営推進会議を行い地域の方々と意見交換を行う機会を設けたり、学校からの訪問や民生委員の方が訪ねて来てくれ、近隣の学校行事へも参加できている。又年に2回消防避難訓練の指導をいただいている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者の状況に応じて、訪問理容サービスを利用したり、歩くことのできる利用者はこちらから店舗の方へ散髪をしに出掛ける事ができている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に包括支援センターの職員に参加していただき情報交換や協力をいただいている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医、利用者や家族が希望するかかりつけ医に受診したり、その方の状況に応じ協力医に往診していただいている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	<p>チームケアの重要性、職員間の意識の統一の大切さを学び今後、勉強会等で時間を設け話し合っていきたい。</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの誇りやプライバシーを損なわないような声掛けや対応に心掛け、記録を付ける際は実名を公表せず initials で名前を記入しており、絶対に記録を外へ持ち出さないように気を付けている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日常生活の中でその方の話を傾聴し食事のメニューや出掛けたい場所など利用者に決めてもらえるような声掛けを行っている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは決まっているが固定せずその日の利用者の気持ちを尊重し利用者一人ひとりのペースに合わせて柔軟な対応を心掛けなるべく添えるように支援している。	○ 希望に添えている利用者の方とそうではない方がいる為、希望に添えていない方にも目を向けていきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	自ら化粧をする利用者と一緒に口紅やアイシャドウを買いに出掛けたり、職員が利用者の爪にマニキュアを塗ったりしている。又、利用者より髪を切ってほしいと要望があった際は職員が行っている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	週に2回棟ごとに献立を作成する日があり、利用者にリクエストメニューを聞いて取り入れている。又、調理や盛り付け、食事、片付けの役割が個々にあり一緒に行っている。食事中はテレビを消し静かな空間で職員と利用者が一緒に食事をしている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	リクエストのあったお菓子をおやつ前に作ったり、食べたい物や飲み物を好みに合わせて出している。又、利用者が週2回コーヒーマーカーでコーヒを入れて喫茶店を開く事ができている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	安易におむつに頼らず本人の意志、通気性やコスト等に考慮し布パンツにパットを使用している。又、パットを使用していない利用者には失敗したとしてもプライドを傷つけないよう素早く交換できるよう心掛けている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	いつでも入れるように朝から準備し声掛けし、職員が一方的に決めず、本人の希望で入浴していただいている。又、入浴しないご利用者様は清拭や足浴を行い清潔保持に心掛けている。	○	夜間入浴の希望がないため、毎日朝から夕方にかけて入浴を行っている。今後希望が出た際など柔軟に対応していきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夕方から就床時にかけて夜であることが自然に理解できるようカーテンを閉め照明を少なくし、静かな環境を作るよう心掛けている。又、入眠できない方は、家族に今までの生活習慣について聞いてみたり、相談している。それでも入眠できない方は入眠するまで職員がそばに付き添ったり和室やソファで横になってもらう。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの得意な分野で力を発揮してもらえよう食事作りや片付け、洗濯物干し、畑仕事などの役割への参加を支援したり、踊りや民謡を歌うなど気晴らしの支援をしている。	○	楽しみ事ではまだまだ満足していただけない面もあるかと思われるためその方にあった楽しみ事を見つける。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全利用者ではないが希望に応じて、自分の財布をもっている方もおり、買い物に行った際などは自分で支払いをしていただけるよう支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気、本人の気分や希望にお応じて季節を肌で感じてもらえるよう散歩、買い物、ドライブ等に出掛ける事が出来ている。長距離が歩けない利用者には車椅子を使用し皆と一緒に散歩へ出かける事が出来るよう支援している。	○	利用者全員での外出は難しいため、利用者2～3人での外出などゆっくり話を聞き関われる時間を少しでも多く作っていきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	1～2ヵ月に1回はドライブなど少し遠方へ出掛け外出ができるよう計画を立て実現できるよう心掛けている。	○	家族と共に出かけられる機会がなかなか無い為、前もって企画し出掛ける機会を持ちたいと思う。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の能力や家族の希望に応じて携帯電話を使用し家族へ連絡できるように支援している。又希望があれば職員から家族へ電話をする支援をしている。	○	電話を掛けたいとの訴えがある方がいるが、電話番号が分からなく電話できずにいるため後日家族へ確認し電話をしても良いか承諾を得よう考えている。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも訪ねていただけるよう面会時間は決めておらず、来苑された方には気持ち良い挨拶を心掛け気軽に話し掛けていただけるような環境を整え、居室にてゆっくり過ごしていただいている。又、帰られる際は再び来ていただけるよう声掛けに努めている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について全職員がその弊害について理解し拘束しないケアに取り組んでいるが、気付かないうちに身体拘束をしていないか見直している。	○	法令等の細かなところまでの把握はできていないため勉強会をする機会を持ちたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関等に鍵を掛けることはせず、いつでも出入りができるよう開放している。又、外へ出て行かれた利用者にはさりげなく声掛けを行い一緒について行くよう支援している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は利用者が今どこで何をしているか把握して居室にいる際などは時折訪室するよう心掛けている。夜間は職員がリビングに待機しており2・3時間置きに巡回して様子観察を行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	刃物等管理できるご利用者は所持していただいたり、必要な時に貸出し見守りをしている。又、注意が必要な洗剤・薬品に関しては利用者の手が届かない所に置いたり鍵を掛けて保管している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止には努めているが、万が一事故が起きた際は速やかに家族へ連絡し、職員間で話し合いをもち事故報告書を提出し事故再防止に向けての検討を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時の対応について、マニュアルを作成し周知している	○	以前消防署にて、救急手当・蘇生術の研修を受けている。しかし、その後に働き始めた職員は受けていない。今後、また研修を実施したい
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回利用者と避難訓練を行い避難経路、避難場所の確認、通報の方法をシミュレーションするなどの訓練をしている。災害時は休日の職員も駆けつけるよう心掛けている。地域の協力体制については運営推進会議の際に協力を呼び掛けている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	利用者一人ひとりに起こり得るリスクを把握して毎月家族への手紙での報告や家族の面会時に必要に応じて対応策やリスクを具体的に説明し理解を得られるよう努めている。	○	・入居の際、口頭での説明はできているが、文書が整備されていない為、早急に整備したい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	1日1回のバイタル測定をする事でその方の状態を把握し少しでも変化が見られた際は職員間で情報を共有した後早急に看護師へ連絡して受診にもつなげている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を個人ごとのケースにファイリングしておりいつでも内容を把握できるようにしている。又、薬の処方や用量が変更となった際は全職員で情報を共有し引き継ぎの徹底を行い、利用者が確実に服用できるようにその方の状態に合わせた服用の支援をしている。	○	薬の目的・副作用等、すべての把握は十分ではない。そのため内服薬変更時に全職員が素早く確実に把握できるよう日誌に添付し確認している。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘の原因、背景などを看護師も交え話し合いをして、水分摂取や腹部マッサージ、散歩や体を動かす機会と取り入れて自然排便に心掛けている。それでも便秘な方には協力医へ相談し下剤により排便コントロールを行っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	利用者に応じた歯磨きの介助うがいの促しを行い、義歯の方は預かりポリデントへ浸けている。	○	利用者全員毎食後のうがいを実施していきたいと思う。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスは管理栄養士が管理し、食事摂取量・水分量は食事毎にチェックし、職員が情報を共有できるようにしている。又、食事量が少ない利用者には別な食品を用意するなど個別に支援を行っている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防マニュアルを作成しており、それに従っている。インフルエンザの予防接種を毎年行い予防に努めている。又、来苑者にも手の消毒・マスクの着用をお願いしている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日調理用具を熱湯やハイターで消毒を行い、週に1回食品保存や在庫・賞味期限等の確認をチェック表を作り行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関が施設らしくなく近所の家に近い作りになっており、花壇に花を植えたりベンチを置いたりしてくつろげるよう開放的な雰囲気作りにも心掛けている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	タペストリーを飾る等、意識的に季節感を出すようにしている。又、散歩へ行った際に採ってきた花をテーブルの上や玄関に飾ったりしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の所々や玄関先にベンチを置きゆっくりできるスペースを確保して利用者同士で談話やお茶を飲みながらくつろいでいただけるよう雰囲気作りにも努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や日用品、位牌等を置きお供え物をあげたりして安心できる居室空間を作るようにしている。又、利用者の好みに応じてでベッドや布団を使用して居心地良く過ごせるよう努めている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎日掃除の際に窓を開けたり換気扇を付け空気の入換えを行っている。又、外気温との差も考慮し状況に合わせて冷・暖房にて温度調整を行っている。居室のにおいが気になる時は芳香剤や石鹸をおくように努めている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全棟バリアフリー構造になっており、トイレ・浴室には段差がなく台所のシンクや調理台は利用者が使いやすい高さになっている。段差がある玄関やお風呂場には手すりを増設設置している。	○	まだまだ手すりの増設を検討する箇所があるため支援していきたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人ひとりにあった役割をしていただけるように努めている。又食遊び等の行為が見られても否定せず見守り何を求めているのか見極め本人にとってより良い方法を検討し支援している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ホームの表側に花壇、裏側には畑を作っており、東側には車椅子の方でも使用できる畑もあり、四季折々の野菜や花を植え収穫を楽しんでいる。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム山王こもれびの家
(ユニット名)	ひまわり棟
所在地 (県・市町村名)	宮城県栗原市
記入者名 (管理者)	遠藤真澄(介護支援専門員兼生活相談員)・高橋綾子(ユニットリーダー)
記入日	平成 20年 11月 6日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○	・全職員が常に理念の重要性を認識し、同じ方向性を持って入居者主体のケアにあたるようにしたい。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	○	・開設前に地域住民を対象に内覧会を実施し、事業所の理念や役割などを伝えている。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	運営推進会議を通して、より地域の方が身近に感じられるようになった。地域の行事や催し物に参加することにより、地域の方からも声をかけて頂き、交流が出来るようになってきた。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	・運営推進会議の中で、地域の方や家族と話し合いの場をもっている。 ・人材育成の貢献として実習生の受け入れを積極的に行っている。	○	・認知症になっても、地域の中で安心した暮らしが継続できるように、認知症について悩みがある時は、気軽に足を運んで頂けるよう働きかけていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・外部評価の意義について、また、ケアの振り返りとして自己評価を有効活用できるように勉強会を実施した。それぞれの振り返りがケアに反映されるよう、銘々に記述してもらった。	○	・自分たちが努力している点は評価し、普段の業務の中で見落とされている箇所については具体的な課題を見つけ、より良い方法について、職員それぞれが考え、その意見を吸い上げる機会を作っていきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・2ヵ月に一回、運営推進会議を開催し、利用者やサービスの取り組み等、意見をいただいている。	○	・意見をいただくばかりではなく、サービス向上につながるように、実践していきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	・運営推進会議にて交流している。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	・県主催の権利擁護に関する研修会に管理者が参加している。	○	制度に対する認識が、まだ不十分なため今後も勉強していきたい。また、地域包括支援センターが近くにあるため、相談し協力を仰ぎたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・研修会に参加し、虐待防止について職員に報告している。	○	虐待防止について職員間で意識を統一していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>・契約に関しては、理解しやすい言葉で説明をするように努めている。ご家族の不安な気持ちを受け止め、こちらからの一方的な話しにならないよう注意している。また、不安な点は納得いくまで対応するように努めている。</p>	<p>・家族の思いを受け入れるとともに、現在の施設の状況を説明し3ユニットの中で、新規入居者も、既に入居中の方にも安心して安全な暮らしが出来るように説明をし理解をしていただけるよう努めている。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>・利用者の意見は職員が普段から聞く姿勢を持つようになっている。各棟のリーダーが職員から意見を吸い上げ、場合によっては、管理者が時間をかけて話しをする機会を設けている。</p>	<p>○</p> <p>・職員の動きの中で、利用者から忙しいと感ぜられるような場面が見受けられるため、利用者がいつでも安心して話しが出来るように気を配っていききたい。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>・面会時には、普段の様子を話している。健康状態に変化が見られた際や、外来受診後は電話で報告をしている。・毎月、生活の様子や、健康状態、家族へのお願い事などを記載し郵送している。また、返信封筒を用意し家族からのご意見をいただいている。</p>	<p>○</p> <p>・遠距離の為面会に来られず、こちらから一方的な報告になりがちな家族もいる。根気強く声をかけ、家族の方から足を運んで頂けるホームにしたい。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>・家族の面会時には、挨拶に行くなど、話す機会を設けるよう努めている。また、月一回、家族への手紙を送付し、意見を聞く欄を設けている。・運営推進会議など、家族の意見をいただくようにしている。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>・勉強会や職員会議、カンファレンス、申し送り等で意見を出す機会を作り運営に反映させている。・常日頃から、職員が意見を出しやすい雰囲気作りを心がけ、管理者の方から、意識的に話す機会を設けている。</p>	<p>・リーダー会議や各委員会を設置し、職員の意見をできるだけ反映できるよう努めている。(ケアや物品の購入など)</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>・その日の利用者の状態に応じて、また、行事など必要時には職員を加配するなど調整している。</p>	<p>・管理者は、利用者の状態の変化に応じた柔軟な体制がとれるようにしている。</p>
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>・極力移動や離職によるダメージがないように配慮している。新しい職員に代わる際には、極力引き継ぎの時間を多く持つよう働きかけている。</p>	<p>・新しい職員が入った場合には、利用者、家族に、きちんと紹介をしている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・2ヵ月に一度、全体での勉強会(会議)を実施している。また、外部の研修には積極的に参加をするようにしている。GH協会の交流研修や交換研修、相互評価事業研修、宮城県認知症実践者研修など、段階に応じて研修に参加している。研修会に参加した職員から報告をする機会を設け全職員で共有するようになっている。	○ 今後も、勉強会や外部への研修を積極的に行い勉強する場を設けていきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・GH協会主催の交流研修会、交換研修、相互評価事業研修等に参加し、他の施設と交流をもつ機会を設けている。同業者と意見交換をする事により、自らのケアを振り返り、施設全体のケアの質の向上を図っている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	・他の部署と合同で研修旅行を実施したり、年4回の親睦会を開催し、ストレス解消に努めている。・昼食後の落ち着いた時間帯に職員同士が話をする時間を設けている。・研修や交流会に参加し、気分転換を図る機会になるよう努めている。	○ 職員一人一人と、じっくり話をする機会を設けていきたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	人事考課や資格取得後には、賃金が上乘せ(臨時介護員は)されるよう配慮している。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人が緊張せず話しやすい雰囲気作りから始め、混乱しないような対応を心掛け、本人の状況を理解し苦しんでいる事、困っている事を把握するよう努めている。	本人の気持ちが落ち着いている時間帯に実調を行い、こちらからの一方的な聞き取りをするのではなく、本人が話しやすい雰囲気を作り分かりやすい言葉で話し掛けている。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ケアプランを送付の際に家族からの返信がもらえる用紙を送り、ご家族様の意見を聞けるようにしている。又、返信があった際職員全員が見れるようにしている。	家族が抱えている悩み、問題について受け止める姿勢を持ち入居に至った際に、どうしたら安心できる暮らしが可能かを一緒に考えるようにしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	地域包括支援センターやケアマネジャー・本人・家族の実調をしっかりと行い、どの支援を必要としているかを見極め対応に努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前に本人・家族が見学に来たり、日帰り・宿泊体験をして、その方が馴染めるよう努力している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活の中で利用者の思いを知る事に努め、利用者職員が共に協働しながら、お互いの関係を大切に「やりがい」を持って生活して頂けるような場面をセッティングしたり、関わり方にも配慮している		一人一人との関わりを大切にし、思いを知る事に努めていく
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	毎月1回家族への手紙を通しての情報提供や色々な行事への参加のお誘いをして、来ていただいたご家族様の意見やお思いを理解し一緒に支えていく関係を作っている。	○	家族によっては行事に来れない方もいるが、なるべく家族が行事に参加していただけるような声掛けを行う。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族のご本人への思いや、ご本人の家族への思いを受け止めて、両者の思いが結びつくように、日頃の状態を報告・相談し、行事等への参加を促しながら、より良い関係になるように努めている。		今年は、地震の影響もあり、まだ開催されていないが、毎年家族会を行っている
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	バックグラウンドを知り、昔から利用している美容室やお店などに出向いたり、馴染みの知人や友人・家族の方と交流が出来るように、一人一人の思いを尊重している		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係性について、職員同士が情報交換し、個々の関係がスムーズにいくように配慮している。また、その日々時々で感情が変化する事もあるので、注意深く見守るようにしている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院や施設移動をした方達に利用者と一緒に会いに行ったり、退所された家族・利用者が急に来苑された時でも快く受け入れ関係を断ち切らないよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で話や表情から思いや希望をくみとり毎月1度のカンファレンスをもとにその人にあったよりよい支援を検討している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家族や本人からの聞き取りをし、入居後は今までのような暮らしが継続できるよう本人との関わりを大切にしている。又、面会者や家族にアセスメントをしてより良く把握できるよう努めている。	○	なかなか聞き取りができない方もいるが、利用者本人との会話の中で聴けるように心掛けている。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者様一人ひとりの生活全体のリズムを把握するようにしている。又、行動、表情など変化がある時は日誌や連絡ノートにて引き継ぎ職員間で把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月に1度職員全員でカンファレンスを行い本人の思いや要望・家族の意向を反映しケアの方向性について意見を出し合い、よりよく暮らせるためのケアプランを作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月1度のカンファレンスの際、職員全員で意見を出し合い話し合いを重ね現状把握してからそれに伴いケアプランを作成している。著しく状態変化が見られる際など状況に応じて速やかに話し合いケアプランを作り直している。		利用者の日々の言葉や気持ちをケアに反映させようと努力はしているが、十分ではないと思われる。連絡ノートを活用し、どんなに小さいことでも話し合い今後のケアに役立てたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のファイルを用意し、毎日の食事・排泄等身体状況、及び日々の生活の様子などを記録して介護計画へ繋げている。また、利用者の変化やケアのアイデアなどは、連絡ノートへ記入し、身体状況の変化などは、看護員との連絡ノートへ記入し情報交換・相談を素早く行い、関わる全ての職員が情報を共有できるように努めている		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご本人やご家族の状況に応じて、通院等必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足度を高めるように支援している		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	2ヶ月に1度運営推進会議を行い地域の方々と意見交換を行う機会を設けたり、学校からの訪問や民生委員の方が訪ねて来てくれ、近隣の学校行事へも参加できている。又年に2回消防避難訓練の指導をいただいている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者の状況に応じて、訪問理容サービスを利用したり、歩くことのできる利用者はこちらから店舗の方へ散髪をしに出掛ける事ができている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に包括支援センターの職員に参加していただき情報交換や協力をいただいている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医、利用者や家族が希望するかかりつけ医に受診したり、その方の状況に応じ協力医に往診していただいている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		<p>今後安心して終末期を迎えられるよう、他のユニットのターミナルケアの経験を活かしたい。</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの誇りやプライバシーを損なわないような声掛けや対応に心掛け、記録を付ける際は実名を公表せず initials で名前を記入しており、絶対に記録を外へ持ち出さないように気を付けている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日常生活の中で、職員が答えを出すのではなく、一人一人の好みや希望を尊重して、些細なことでも自己決定できる場面をつくっている。(入浴・食事内容・活動・買い物など)	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	今までの生活習慣を把握して、その日・その時の気持ちを大切に、希望に添い柔軟に対応できるように努めている	ドライブや散歩、外来後の外食など一人一人の希望に添い、楽しみ事へ繋がるように努めている
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	ご本人の馴染みの理美容室で、希望に合ったカットなどを行っている。また、行事への参加や外出の時には、お気に入りの服へ着替えておしゃれをする機会をもっている	ご本人の希望があれば、職員が散髪することもある
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	週に2日ではあるが、利用者の希望を入れながら、食事の献立を作成している。食材の中には、自分たちで育てて収穫し、一緒に調理する事で、会話も弾み楽しみへ繋がっている。また、準備や食事・片付けも、その方にとって毎日の習慣となられている	弁当を作り、花見をしたり、季節ごとに外食や、施設内でバベキューや芋煮会などを行っている
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	職員は一人一人のの好みを理解し、ご本人の様子に合わせて、個々に味付けを変えて食事等を提供し、それらを楽しめるように支援している	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンを把握して、難しい方には排泄チェック表を使用して、トイレでスムーズに排泄出来るようにしている。また、オムツ・パットを使用されている方には、その方に合った使用方法・改善できるように、状態に応じて職員同士話し合う機会をもっている		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員の都合で決めずに利用者に確認して入って頂いている。入浴が苦手な方には、安心して入って頂けるような声掛けや環境作りをおこなっている。また、一人一人が好む温度設定をし、気持ちよく入って頂いている		入浴出来ない場合は、全身清拭やフットバスで対応している
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夕方には、照明や音に気を配り、ゆったりとした雰囲気づくりをし、就寝に向けてリズムを整えている。また、寝つけない時には、ゆっくりと話をしたり、暖かい飲み物を提供するなどしている。寝むれない方には、安心できるスペース(リビング)で休んで頂いたり、入眠できるまで付き添うなど、安心して休めるよう支援している		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人一人の得意な所で力を発揮できるように、ご本人のバックグラウンドや状態を把握して、やりがいや楽しみに繋がるような支援をしている。また、感謝の気持ちを伝えるようにしている。		苑内へ花を活けて頂いたり、畑作業・庭の手入れなど、それぞれの得意分野で活動されている
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段は事業所がお金の管理をしている方でも、外出時には自分でお金を払ってもらえるよう、状況に応じてお金を手渡すなどの工夫をしている。また、ご本人が希望された時には、ご家族の協力を得ながら、少額ではあるが持って頂いている	○	更にご家族の理解を深め、ご本人の思いに添えるように支援していきたい
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ご本人の希望や状態に応じて、散歩やドライブ・、知人や馴染みの場所へ出掛けたり、季節ごとに皆様で外出をするなど、柔軟に対応できるように支援している		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご本人の思いに添い実現する為に、職員の調整、ご家族の協力を得るなど柔軟な対応・準備に努めている		花見・紅葉狩り・舟下り・祭りごとや、自宅・お墓参りなど個々の思いに合った支援をしている

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	日常の会話の中で、電話をしたいとの話しが聞かれた時には、すぐに対応し、会話中は安心して話して頂けるように、他者に聞かれないよう配慮している。思いを上手く伝えにくい人には、職員が仲介に入るなど、相手の方との関わりにも配慮している。また、手紙のやりとりも支援している		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時間などは決めておらず、仕事帰りやご家族の都合の良い時間帯にいつでも訪ねて頂けるようにしている。また、訪問された時には、ゆったりと過ごせるような雰囲気づくりに努めている		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	カンファレンスや日々の申し送り等でケアを振り返り、自覚なく拘束行為が行われていないか、言葉の拘束も含めて話し合いの中で確認している	○	今後も、自覚なく拘束行為が行われていないか職員同士での意識付けが必要である
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	一人一人の行動パターンの把握に努め、利用者が外出しそうな様子を察知したら、さり気無く声を掛ける・見守る・一緒に出掛けるなどして、安全面に配慮して、その人らしく生活ができるように支援している		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は利用者と同じ空間の中で、さりげなく全員の状況把握に努めている。夜間も数時間ごとに利用者の様子を確認し、起きた時にはすぐに対応できるようにしている		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	今まで使用してきた物(ハサミ・裁縫道具など)は部屋に置いて頂き、状態の変化に合わせた対応をしている。また、厳重に保管する物・保管が必要な物・利用者が使うのに必要な物などに分けて管理している		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者の状況に合わせて、想定される事故を防止する為に、職員同士で話し合いや情報交換を行っている。万が一事故が起きた場合、事故報告書を作成し、事故防止計画書にて職員全員の意見やアイデアを出して今後のケアに繋げている。また、ご家族への説明をすぐに行っている		職員間のひやりはっとの情報交換を行い、今まで以上に話し合いを設け、統一された対応ができるように検討していきたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時の対応について、マニュアルを作成し周知している	○	以前消防署にて、救急手当・蘇生術の研修を受けている。しかし、その後に働き始めた職員は受けていない。今後、また研修を実施したい
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、年2回利用者と共に避難訓練を行っている。地域の協力体制については、運営推進会議で協力を呼び掛けている。	○	6月には、宮城岩手内陸地震があり、大きな被害はなかったものの、非常用食料・備品等の不足など、実際に経験したこと・感じたことを生かして、今後に繋げられるように、話し合う機会を設けていきたい
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	生活の中でのリスクについては、面会の際にご家族に説明をしたり、なかなか来る事の出来ないご家族には、手紙や電話で伝えるよう努めているが、密に話し合う事が出来ないご家族の方もいる	○	今後、更にご家族の方と、密に話し合う機会をもてるように努めていきたい
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段の状況を把握して、状態の変化があった際には、速やかに看護師と連絡をとり、対応について相談をしている。状態によつては体調不良者・状態チェック表に記入して、受診した際に状態を伝えやすいように工夫している		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成し、薬の確認は2名で行っている。服薬時には、一人一人に合った対応がされている	○	今後も服薬ミスがないように、状況に合った対応を検討していきたい
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	繊維質の多い食材、乳製品をとりいれている。散歩や家事活動等身体を動かす機会を適度に設けている。また、便秘気味の方には、水分チェック表や排泄チェック表を利用して、職員の意識づけや原因の追及に努め、自然排便を促せるよう取り組んでいる		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアの重要性をすべての職員が理解し、一人一人に合った食後のうがい・歯磨きへの対応をしている。就寝前には、義歯洗浄を行っている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスは管理栄養士が管理し、食事摂取量・水分量は食事毎にチェックし、職員が情報を共有できるようにしている。又、食事量が少ない利用者には別な食品を用意するなど個別に支援を行っている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防マニュアルを作成しており、それに従っている。インフルエンザの予防接種を毎年行い予防に努めている。又、来苑者にも手の消毒・マスクの着用をお願いしている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板・包丁・キッチンバサミ等は、毎晩漂白し、おしぼりは毎食後漂白されている。チェック表を使用し、確実に行えるようにしている。また、冷蔵庫や冷凍庫・食品倉庫の点検・掃除を週に1回行うなど、清潔・安全を心掛けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	明るく落ち着ける玄関になるように、ベンチを置いたり、利用者に花を活けて頂いたり、庭先には季節の花を植えるなどしている		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	時間帯に応じた音量・光・対応に努めている。食事の準備も時間帯に配慮しながら、雰囲気作りの一部となっている。また、リビングや廊下などの飾り付けは、利用者と職員が一緒に作成し、季節感のある物にしている		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	西側廊下の椅子や廊下・玄関先のベンチなどで、一人でゆっくり過ごしたり、仲の良い方同士で過ごすことができている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や使い慣れた日用品、誕生日のプレゼント、ここでの生活で好みの物などが置かれ、その人らしさがある安心のできる居室となっている。	○	状態によっては、馴染みの物でも混乱材料になることもあるので、状態の変化にあった居室の空間作りに努めている
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居室やリビング・廊下など、毎朝換気を行っている。温度調節は、利用者の様子をみながら調整し、暖房を使用する時には、加湿器を使用している。また、共同のトイレは、換気扇と消臭剤を使用している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態に合わせて、手すりや浴室、トイレ、廊下などの居住環境が適しているのかを見直している。また、台所のシンクや調理台は高さを利用者の使いやすいものになっている。畑では、車イスの方でも作業ができるようになっている	○	まだ手すりや滑り止めなど、必要な個所があるので、今後改善するように努めていきたい
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人一人の分かる事や必要な支援、混乱してしまう事などの把握に努めている。状態が変わった時には、その都度職員で話し合い、その不安材料などを取り除き、安心して自分の力を出していけるように工夫している		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関先にベンチを置き、日光浴や涼しんだり、皆の集う場所となっている。また、庭や車いすでも使用できる畑などがあり、それぞれの楽しめるスペースとなっている		玄関先では皆で歌ったり、会話を楽しんでいる。庭は季節の花や植物が植えられて、季節を感じる事ができている。畑でも、季節の野菜を利用者に相談しながら行え、苗をご家族からいただくこともあり、皆様の生き生きとした様子がみられる

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)